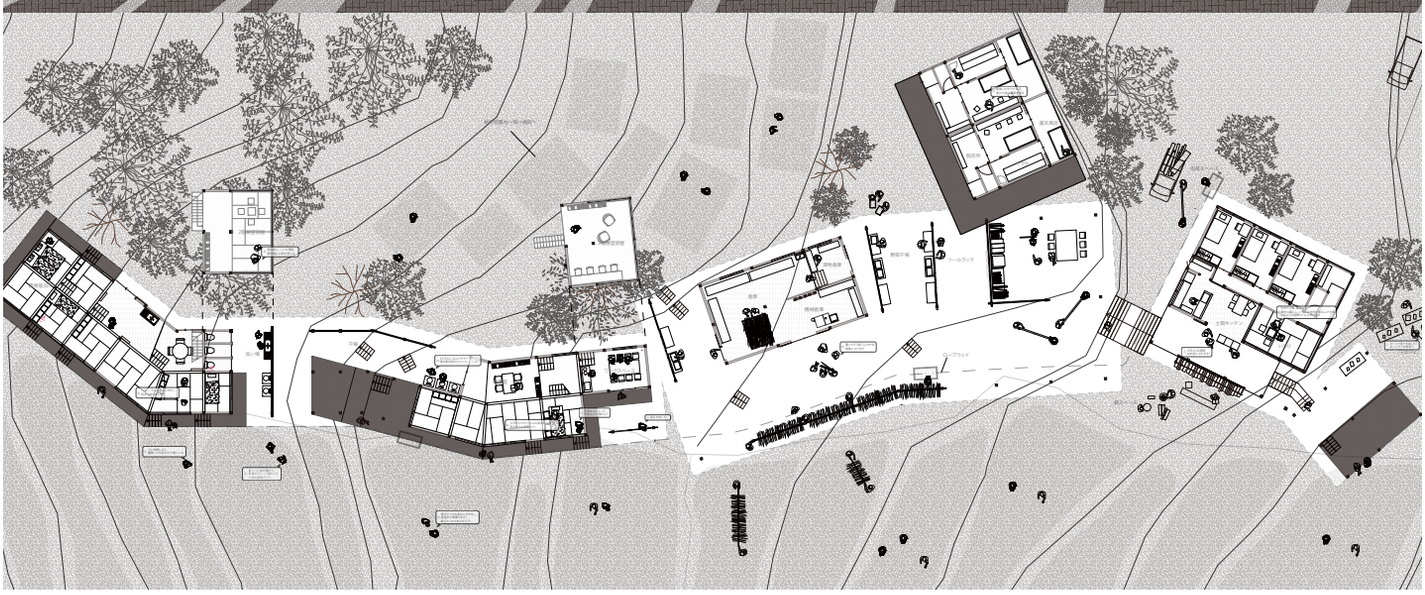
玉地沙季
能作研究室

tool sharing

敷地：葉山上山口の棚田
用途：農業宿泊体験施設

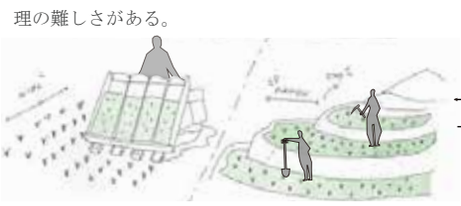
傾斜に沿って段上に連なる棚田は、山の水脈を整えるダムの役割を果たし、生物多様性を保全する。しかし高齢化や農業の衰退が進む現代では、あらゆる棚田が耕作放棄地として放置されている。日本の原風景ともいえる棚田を保全していくためには建築には何ができるのだろうか。



problem

①機械導入の困難：水平面の農業と異なり、傾斜上のひとつひとつの田んぼの面積が小さな棚田では、機械の導入が困難であり人の手による作業が多いため、生産効率の低さと労力の大きさによって維持管理の難しさがある。

②人手不足：農家の減少や、土壁や茅葺きといった自然素材の需要が減り、街との関係の希薄化も進んだことによる孤立化から、高齢化や後継者不足といった人手不足があがる。



concept

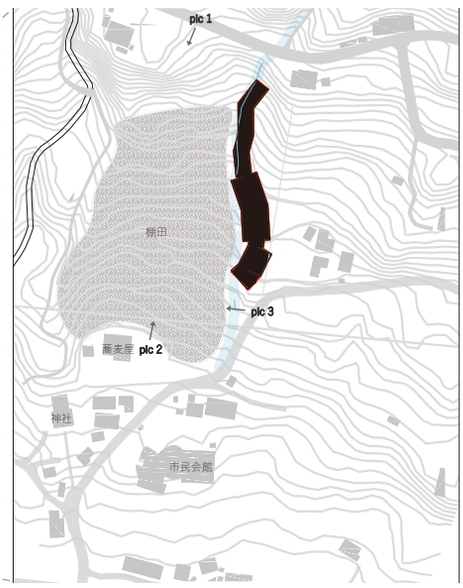
[[棚田を保全するための農業体験宿泊施設]]

景観、環境ともに良い棚田を保全していくため、棚田に沿って棚田の活動を支え、都会からくる人や街の人が棚田の活動に介入できるパブリックな建築を設計する。周辺の農業引退者を招集し、農業体験の指導を行う事で、棚田の保全を目的とした農業体験の宿泊施設を可能とする。

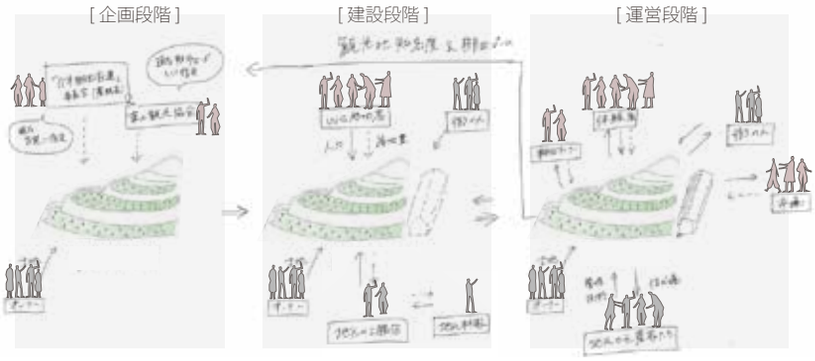
site

神奈川県三浦郡葉山上山口の棚田

本設計では、神奈川県の葉山に位置する上山口の棚田を敷地とする。都心から約１時間未満の距離に位置し、付近には棚田所有者の親戚が営む人気の蕎麦屋をはじめ、多数の観光スポットがある。日本棚田百選に選出されており、休日の棚田への観光客は多い。しかし敷地調査を経て、棚田の管理は高齢の４人で行われており、手作業による労力の不足や後継者の不足、また周辺農家の衰退による棚田の孤立や材料が余るといった問題が明らかになった。



operation flow



［運営への流れ］

本敷地は農林水産省の日本の棚田百選に選出されており、葉山観光協会により観光地として散歩ロードに指定されている。オーナー許可のもと双方からの初期投資を受け、地場産の材を使う地元の工務店の指導のもと WS で自分たちで使いながら建設、修理を行う。運営段階においては、街のひとや、地元の引退した農家達に住み込みで管理を頼み、体験者・市場・棚田オーナーから利益を得る。

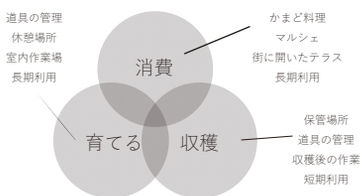
［他の棚田への転用］

棚田観光地の代表として有名になることで、日本における棚田に関する注目度を高めるとともに、他の棚田を持つ地域へと転用していくことを考える。

diagram

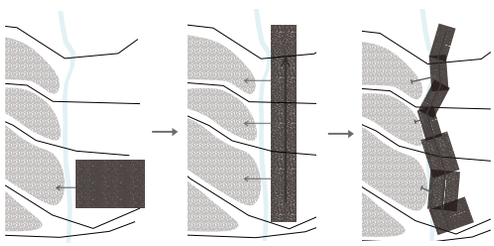
＊３つのサイクルを支える

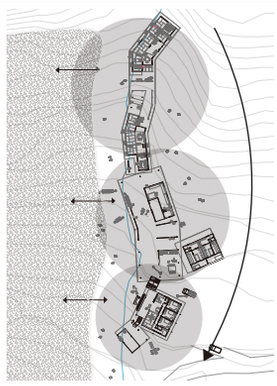
棚田では、育てる、・収穫・消費の３つのサイクルがあり、それぞれで必要とされる機能を付加することで棚田の作業を支えると同時に稲作におけるサイクルを体感できることを目指す。



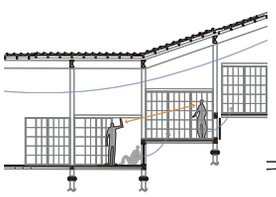
＊傾斜的に支える

通常水平面に建つ建築を棚田に沿って伸ばすことで、傾斜ごとに行われる作業に寄り添うと同時に、機械による近代がされにくい棚田の傾斜としての概念をより体感しやすくすることを狙う。また、軸をずらすことで棚田との距離感の違いを生み出す。

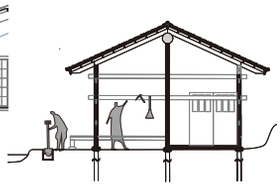




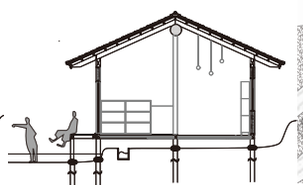
design



01段上に広がる畳

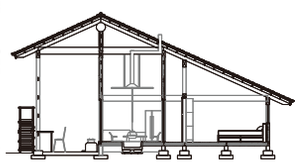


02 農業用水路の利用



03 水田におろす柱

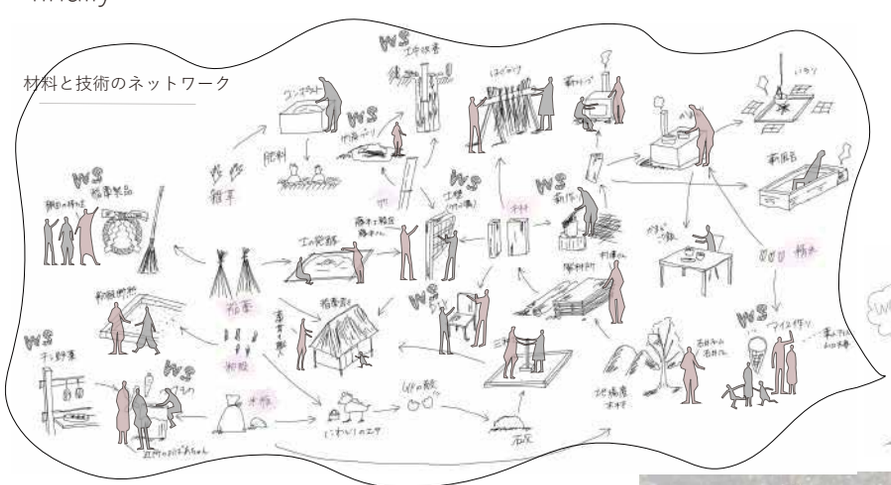
04 貫で助ける収穫



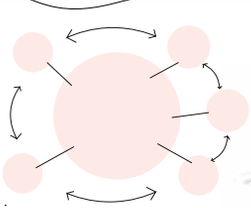
05 薪とかまどで支える食

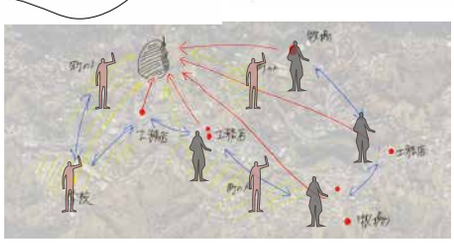
finally

材料と技術のネットワーク



穫後の 12 月から 3 月の空白の期間ではワークショップを行うなど街を含めた居場所として活用する事ができる。





新たな関係性
技術を学びに行く
技術や材料を持つ人

棚田を中心とした材料や技術の連関に様々な人が入り込むことで街を引き込んだ棚田ネットワークが生まれる